

心のバトンパス

有村 緑花

私のお父さんとお母さんはいつも仕事でいそがしいので、おばあちゃんがお世話をしてくれます。

私とお兄ちゃんは、いつもけんかしてばっかりです。物もちらかしてばっかりです。それも全部おばあちゃんが止めたとかたづけたりしてくれれます。

そんなおばあちゃんの気持ちも少しは考えようと思つて、夏休みはけんかもしないようにして、ちらかした物もかたづけるようにしました。

おばあちゃんが、

「緑花ちゃん、どうしたの。」

と、おどろいています。

「かたづけてるの。」

と返事をしました。

「あら、そうなの。ありがとう。」

おばあちゃんは、こう言ってくれました。そのありがとうのえ顔に、私もうれしくなりま

した。

このことが、私の「ありがとう」について考えるきっかけになりました。そして、思いついたのです。ありがとうって、「心のバトンパス」なんじゃないかって。

そう考えると、おばあちゃんからお礼を言われた私は、おばあちゃんから心のバトンを手わたされたことになります。

バトンはリレーの時に使います。うけとつたら次の人にひっしにつなぎます。「だから私も次の人にバトンをパスしないとイケないな。」と思うようになりました。そして、こういうことをくり返すと、みんなが笑顔になれるんじゃないかと思いました。

ためしに私はお兄ちゃんの分までかたづけてあげました。するとお兄ちゃんの方から、「おう、ありがとな。」

とお礼を言われたのです。びっくりしました。人の分までかたづけるのは本当はめんどろで大へんに思うけど、またバトンパスをもらうとわるい気持ちにはなりませんでした。自せんと私の顔は、笑顔になっていました。お兄ちゃんの顔もです。

私は、いつも当たり前のように心のバトンパスをしてくれるおばあちゃんが大好きです。そして私もこんな風に相手を笑顔にできる人になりたいなと思いました。

あなたも「心のバトンパス」をもらうかもしれないよ。そしたら、あなたもちゃんと次の人にパスしてあげてくださいね。